

平成26年度 能代市バスケの街づくり市民チャレンジ事業 応募事業一覧

申込者	①個人	②個人	③NPO法人 ミライ10
事業名	バスケ・アート事業	「ウォーク・オブ・フェーム」製作	DOCTOR'S BASKETBALL FESTIVAL at NOSHIRO 2014
事業内容	バスケ関連の芸術品を一つ製作し、柳町の歩道にアート作品を観光資源として配置する。	アメリカにある「ハリウッド・ウォーク・オブ・フェーム」のバスケ版を製作し、能代の観光名所にしようという事業。 昨年引き続き、今年も有名選手、監督のガラスの手型を一つ製作し、能代バスケロードの一部に「バスケの街」の観光資源として配置する。	バスケ好きの医者チームを能代に呼び込み、バスケを楽しんでもらう。
無償スタッフ活動時間	160時間	160時間	150時間
補助申込金額	100千円	100千円	100千円
審査会の主な意見、改善の提案等	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケアートという発想自体は良いが、中心市街地活性化協議会等の団体と連携し、多くの人に参加してもらって実施することが望ましい。 ・石材を使うことのアイディアは面白いと思うが、石材業者からアイディアを提案してもらうなど、連携して実施してはどうか。 ・補助金を活用する事業である以上、単なる不思議アートと思われたいよう、計画性を持って実施してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作にあたっては、モデルの人選についてもしっかりと検討してほしい。 ・製作数を増やすのであれば、他の材質で作れないかなどの検討も必要と思われる。 ・どのくらいの期間が必要なのかなど、計画性や全体的なイメージを具体化してほしい。 ・毎年度同じ物を1つずつ作っていくのであれば、チャレンジ要素が少なく、この補助金にはなじまないため、次年度も同じ内容で申込みがあった場合は、採択は難しいと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他で行われている募集要項を調べ、事業の趣旨を明確にし、計画性のある事業としていただきたい。 ・募集期間が短いのが不安だが、新たな試みとして期待したい。 ・バスケイベントとして実現させることが大事だと思う。募集方法や広報、実際の成果についてしっかりと事後検証をしていただき、継続してほしい。

平成26年度 能代市バスケの街づくり市民チャレンジ事業 応募事業一覧

申込者	④柳町女性会	⑤能代バスケロードフェスティバル実行委員会	⑥NB L M準備会
事業名	柳町女性会はバスケの街能代を応援します	能代バスケロードフェスティバル2014	バスケの街能代発・リサイクルグッズ製作プロジェクト
事業内容	バスケの街能代共通ロゴと「柳町女性会はバスケの街能代を応援します。」の文言を入れたのぼりを製作し、イベント開催時に商店街に設置し、来街者へバスケの街能代をアピールする。	バスケットボールに関わる芸術作品を秋までに公募し、その展覧会をメインとした回遊型イベントを能代市内「バスケロード（仮称）」にて行う。実施時期については、晩秋もしくは初春が適切であると考えている。過去2年間同様、回遊に対するプレゼントも行う。	廃品から再利用によりバスケの街グッズとして生まれ変わるよう、その商品企画および試作を行います。 NPO法人NEWSED PROJECTの協力の他、12月21日はバスケットボールの日委員会、島本和彦さんらの協力・伝手から運動を広げていきます。
無償スタッフ活動時間	150時間	150時間	150時間
補助申込金額	100千円	100千円	100千円
審査会の主な意見、改善の提案等	<ul style="list-style-type: none"> ・柳町には金勇もあるのでPRになり、商店街の統一感が生まれることが期待できる。今後は、柳町商店街振興組合等との連携も期待したい。 ・「(仮称)バスケロード」にとっても、能代のバスケをアピールする手段としては有効だと思う。 ・外へのアピールということだけでなく、地元住民(商店)が、「バスケの街」の意識を持つことを狙いとしている点が評価できる。 ・柳町女性会としてできることから始め、バスケの街のPR活動を継続的に行うことを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去2回の良かった点を引き継ぎつつ、市内の団体等との幅広い連携も検討していただきたい。 ・魅力ある計画なので、継続できるような内容の充実や資金面の確保等が重要である。多くの市民を巻き込んで目に見える成果につなげてほしい。 ・イベントについて、バスケロード上(能代駅から能代工業高校まで)はもちろんだが、もっと幅広い周知が望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売方法や販路の検討が必要になるが、昨年度は調査で終わっているため、まずは商品化に向けてさらなる検討を重ね、売れるグッズを目指してほしい。 ・ファッション性とリサイクル性をしっかりとアピールするための商品ストーリーを明確にしてほしい。 ・県内の専門機関を相談等で活用しながら、地元企業と連携を図っていただきたい。